

観光の現状と課題

観光を取り巻く環境の変化

- 人口減少・少子高齢化の進行
- 新型コロナウイルス感染症による旅行需要の減少
- 旅行形態・観光ニーズの多様化
- デジタル化の進展
- 持続可能性（SDGs）に対する意識の高まり

本県観光の現状

- 観光入込客、観光消費額とも新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少
- 宿泊客が3割未満で日帰り客が7割以上であり、通過型観光が多くなっている
- 県外客のうち8割が九州内からであり、九州外からの観光客が少ない
- 外国人の延べ宿泊者数は九州内で2番目に少なく、インバウンド需要を十分に取込みしていない
- スポーツキャンプ・合宿も新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少

本県観光の課題

- 周遊・滞在型観光の推進
- 九州外からの観光誘客、リピート率の向上
- 外国人観光客の誘致推進
- 多様化する観光ニーズへの対応
- デジタル技術の活用
- 安心して旅行を楽しむことができる受入環境整備
- スポーツランドみやぎきの取組強化

本県観光の目指す姿と数値目標

<本県観光の目指す姿>

地域住民や観光関連事業者等による持続可能な観光地域づくりが推進され、地域社会が活性化するみやぎき

観光資源の掘り起こし・磨き上げと効果的な情報発信により本県の魅力が向上し、認知され、国内外から多くの観光客が訪れるみやぎき

「スポーツランドみやぎき」でスポーツの魅力を体感し、感動してもらうことで、心も体も再生し、訪れる人々に、明日への希望と活力を与えるみやぎき

魅力実感！感動と元気あふれる「観光みやぎき」
～CHALLENGEみやぎき、新しい景色へ～

本県観光の目指す姿と数値目標

<数値目標>

指標	現況値 (R3)	目標 (R8)
観光入込客数	1,013万人回	1,650万人回
延べ宿泊者数	315万人泊	460万人泊
うち外国人宿泊者数	1万人泊	36万人泊
観光消費額	1,051億円	1,950億円
県外からのスポーツキャンプ・合宿延べ参加者数	12.9万人	25万人
国外からのクルーズ船寄港回数	0回	50回
M I C E 延べ参加者数	12,458人	240,000人



基本方針

- みやぎの魅力を最大限に生かした観光の推進
- 観光サービスの高付加価値化と持続可能な観光への取組
- 戦略的なプロモーション
- デジタル技術の活用

取り組むプロジェクト

1 国内外から選ばれる観光地域づくり

- (1) 周遊・滞在型観光推進のための観光資源の磨き上げ
- (2) 新しい観光スタイルに対応した取組の推進
- (3) 地域の観光を牽引する人材の育成
- (4) DM O等による魅力ある観光地域づくりの推進
- (5) 利便性と満足度向上のための基盤整備

2 みやぎの強みを生かした誘客の推進

- (1) 本県ならではのテーマ観光の推進
- (2) 世界ブランド等を生かした観光の推進
- (3) みやぎM I C Eの推進
- (4) 教育旅行の誘致・定着推進
- (5) 観光関連事業者等との連携による取組の推進
- (6) 広域連携による取組の推進

3 外国人観光客の誘致の強化・推進

- (1) ニーズに対応した魅力の創出と情報発信
- (2) 東アジアを重点地域とした誘客・リピーターの拡大
- (3) 欧米豪や富裕層など新規市場の開拓
- (4) クルーズ船の誘致・推進

4 「スポーツランドみやぎ」の推進

- (1) 国際水準のスポーツの聖地としてのブランド力向上
- (2) スポーツキャンプ・合宿及びスポーツイベントの全県化・通年化・多様化の推進
- (3) スポーツツーリズムの推進